



第4回移動幹事会を大阪にて開催

10月14日土曜日、大阪府立青年の家（大阪府三島郡島本町）において、第4回気象予報士会移動幹事会が開催されました。東京から木村会長ほか7人の幹事が出席し、四国支部の3名も含めて35名が参加しました。

- 10：30 - 12：00 記念講演「台風災害の局地性について」
京都産業大学 藤井 健教授（関西気象予報士会副会長）
- 13：30 - 17：00 移動幹事会（幹事会活動報告、自由討論）
- 17：30 - 20：00 懇親会

記念講演「台風災害の局地性について」

1. はじめに

気象予報士の役割の中には、気象庁による予報をベースにしたきめ細かな災害予測がある。このためには、天気図などによる総観規模現象の理解に加えて、地形効果を主とした局地気象の特性を熟知する必要がある。台風災害にも局地性があり、その予測には局地気象の特性を考慮に入れなければならない。

2. 台風の構造

台風9918号は、熊本県牛深市のすぐ近くを通過した。このような場合、気圧の自記紙から気圧分布が求まり、傾度風風速の分布が計算できる。これらの計算やグラフ化の作業はExcelで可能である。また、消防署などの気象観測データを利用すれば、風向の順転と逆転の境界として循環中心の経路が決定できる。

3. 台風災害の局地性 地形との関係

台風9119号通過時、福岡県柳川市では川沿いでとくに風が強く、住家の被害が顕著であり、広島県の厳島神社では登山道に沿ったおろし風により能舞台と能楽屋が倒壊した。また、富山県小矢部市ではフェーン現象により乾燥した強風が吹き、火災は火元から1.4km先の住家にまで拡大した。一方、台風9807号では、奈良盆地における被害から推算した風速によると、新庄町で50m/sを超えている地域があり、それより北方に約2km離れた大和高田市の一部では35m/s以下であった。

4. 局地気象解析法

局地気象に影響を及ぼす地形効果は場所によって異なり、他の地域の地形から類推することは難しい。例えば、大阪、京都、奈良の3地点について、風速5m/s以上の強風が卓越する風向は全く異なっている。それで、局地気象の予測には対象とする場所における観測データに基づいて地形効果を評価する必要がある。これには気象庁データが利用できる。しかし、その利用法の確立が今後の問題である。

5. 台風災害における気象予報士の役割

局地気象の熟知のためには、過去における顕著台風の解析も貴重な情報を与える。例えば、約100年前の1899年8月28日に香川県で大きな災害を引き起こした台風でも解析が可能である。台風災害の中で強風や高潮による災害は、進路予報に基づいて、ある程度は予測できる。すなわち、中心付近の強風域が通過するかどうか、また、とくに風が強まる風向から吹くかどうかの予測であるが、これは気象予報士の仕事であるのかもしれない。ただし、大雨による災害は、前線の影響もあって、その予測は容易ではない。

6. おわりに 21世紀における気象予報士の活動

最近10年間は気象災害の規模が拡大し、頻度が増している。その中には、地下鉄や地下室における浸水事故など都市構造の変化によるものがある。21世紀には、地球温暖化の影響で気象災害は激化していくものと考えられる。これとともに、気象予報士の役割は一層重要なものとなるであろう。



藤井教授



第4回移動幹事会に参加して

関西気象予報士会 阿比留征弥

10月14日(土)第4回移動幹事会が、大阪府立青年の家で開催されました。地方に住む私にとって、気象予報士会活動の基礎となる移動幹事会への参加は大変有意義なものとなりました。

京都産業大学の藤井健先生の記念講演「台風災害の局地性について」は、地形効果による局地気象の特性を熟知する事で、台風の接近により起こりうる災害の発生を予測する事ができ、その為にも気象予報士の力は必要だという興味深いお話で、私を含め参加された方々は真剣に聴き入っていました。



木村会長による熱のこもったご挨拶

昼からは木村会長の千葉の雹、名古屋の水害などメソスケールの激しい現象を的確に捉える事は気象予報士の使命として考え、日本の気象災害減少に貢献して欲しいとの熱のこもった挨拶から幹事会がスタートしました。

幹事会の活動報告の後、自由討論の場でこれから気象予報士会としてどの様に気象予報士を社会に対しアピールするのか、「気象予報士」=「キャスター」ではなく色々な方面での活動を考えなければならない、など活発な意見が交わされました。

その後恒例の懇親会ではちょっと?お酒が入り、皆さんと楽しいひとときを過ごす事ができ、これからも

微力ながらも頑張ろうというファイトが湧いてきました。

最後に気象予報士会並びに関西気象予報士会の幹事の方々ご苦労様でした。

四国から参加して

はじめ
— 広志 会員(愛媛)

去る10月14日(土)第4回移動幹事会(大阪)に四国から3名が出席させていただきました。

さわやかな秋空の中、関西気象予報士会の皆様は「できると思ったことはまず実行しよう」との前向きな気持ちで一つにまとまっていると実感しました。この熱意と人の和が「楽しいお天気講座」などイベントを大成功に導いているのですね。まさに「地に足ついている」という表現がピッタリだと思います。

私も四国支部役員の一員として、参加して本当に良かったと実感できることは何かを日々模索しています。気象予報士の活躍の場を広げていくにあたっては、ただ「予報」だけにこだわるのではなく、気象を通して私たちにできることは何かについて、幅広い視点から改めて考えてみる必要があると思います。MLや地方の例会などの場で、さらに活発な意見交換を進めていきたいですね。

参加した皆様の笑顔が最高に輝いていた一日でした。がんばりませ!四国も。

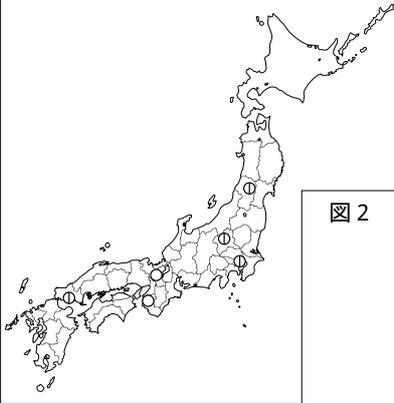


自由討論の場での活発な意見交換

竜馬暗殺時の天気

小野寺健太郎 会員(宮城)

図1 慶応3年11月13日の天気



学生時代に日本史を学んだこともあって、テレビでも映画でも歴史物を見るのが好きである。しかし、天気に関しては吟味された作品は少ない。そこで、私は天保元年から明治五年まで史料から毎日の天気を復元しようと思い、取り組んできた。史料は意外と多く、現在のところ1日平均5データほど集まっている。今後史料を補完してゆけば、概ね総観規模の擾乱は把握することができるのではないかと考えている。今回は一例として、坂本竜馬暗殺時の

図2 慶応3年11月14日の天気



の天気について考えていきたいと思う。竜馬は慶応三年十一月十五日戌下刻（1867年12月10日午後9時頃）、京都四条河原町蛸薬師下ル西側 近江屋において暗殺された。

図3 慶応3年11月15日の天気

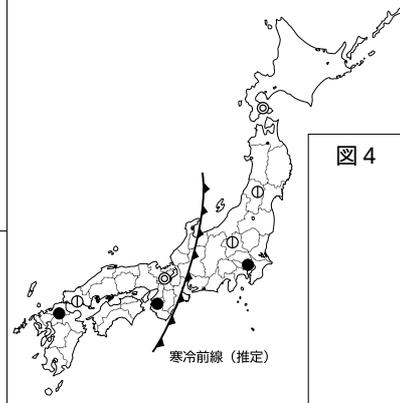


図4 慶応3年11月16日の天気



そこで、各種史料より作成した、慶応3年11月13日から16日までの天気図を示すと上記のようになる。

上記の天気図によると、13日より雨域が九州から東進してきていることが分かる。和歌山の「小梅日記」14日の記事によると「くもり夕暮れに降、七つ過小雨降出、五つ頃段々雨大に成る、夜中絶えず降、大に暖にてこたつもいやらしきほどなり」とあって午後4時頃より小雨が降り出し、午後8時頃雨が強くなり夜中雨で暖気が強く入ってきたことが述べられており、温暖前線の通過と暖気の流入が示されている。15日は「」雨であり、16日は「天気よし雲うごく大分ひやかし」とあって15日の寒冷前線の通過と16日の寒気の流入が的確に述べられている。この例は和歌山であるが、京都でも同様に前線が通過したものと考えられる。そこで京都の15日の天気が書かれている史料を集めたのが下の表である。

日付 (上段=旧暦 下段=新暦)	史実	【甫子日記】(京都)	【尾崎忠征日記】(京都)	【続愚林記】(京都)
慶応3年11月14日 (1867年12月9日)		晴	陰晴半、夕方細雨風烈	晴雲東北行時々陰暖気及深夜雨降
慶応3年11月15日 (1867年12月10日)	午後9時頃、坂本竜馬(33)中岡慎太郎(30)暗殺される	雨	陰晴半	雨降辰半後雨休午後晴雨交雲南行
慶応3年11月16日 (1867年12月11日)		晴	陰晴半	晴雲南方歩北風寒

上記の表によると京都でも14日は南西風が強く暖気が入っており、15日午後には北風に変っている。雨は14日夕方から15日の午前9時まで降り続き、その後も晴れたり曇ったり雨も混じって、変わりやすい天気となっている。これらを総合すると、寒冷前線が京都を通過したのは15日午前中にほぼ間違いない。また16日の天気が回復傾向にあるので、竜馬が暗殺された午後9時頃の天気は、北風とともに強い寒気が入りこみ、空には満月が雲の間に見え隠れしていたのではないかと想像される。

当時の気象状況が推察できると歴史的事件も一層臨場感溢れるものとなってくる。歴史ドラマの気象考証のような仕事があれば是非やってみたいと思っている。

気象に関連する碑文めぐり

富沢 勝 幹事長

協力 村上繁郎 会員(神奈川)

筆者は今年7月に所用で行った函館で、昭和9年3月21日に起きた大火(死者2,057人)の慰霊堂と、昭和29年9月26日に青函連絡船の洞爺丸を転覆させた台風(死者、行方不明者1,761人)の洞爺丸慰霊碑を訪れた。言うまでもないが、気象(防災気象)を学ぶものとしてこれらの史実を知っていなければいけない事であることは、先輩から聞いていた。

次に、まだまだ残暑が厳しい9月2日には、幹事有志とJR小田原駅の改札口へ向かって左側、切符売場の少し先(東京から熱海方面へ向かって左側)に、人の背丈よりひとまわり大きな碑を訪れた。以下、その碑の全文を紹介する。

松本駅長殉難碑

鉄道大臣 八田嘉明

鉄道旅行の利便と幸福を受くる方々はどうぞここに一度は足を停めて鉄道旅行の安全のためにささげられた犠牲の一人松本駅長のことを考へて下さい

昭和十六年七月二十二日暴風雨の夜松本駅長は當小田原駅付近の支障現場を再三視察中烈風豪雨の暗夜とて不幸足を取られて陸橋下に墜落重傷を負いついに再起されなかつたのです

それは戦場の死に見るような華々しさはありませんが職場に忠誠なるわが国鉄道職員の魂がはしなく火花を散らした美しくも貴い死だといわねばなりません

この貴い殉職は三十八萬鉄道職員の胸にいな常に鉄道を利用する一般国民の胸にも永く伝えねばならないことだと思われま

昭和十七年七月

菊地 寛

全国多数鉄道職員ノ後援ニヨリ之を建ツ
発起人代表者

東京鉄道奉公会新橋運輸事務所支部長
片岡義信素堂中邨儀男書

真鶴町駅前

小沢石材店刻

この時の暴風雨は関東の南海上から東京湾に入り、真直ぐ北へ向かって進んだ台風によるものであった。台風の中心気圧は725mmHg(975hPa)であった。

当日(7月22日)の天気図、東京地方の天気予報は気象庁に保存されている。天気予報は「今晚北ノ風強ク雨明日北ノ風雨ガ降ツタリ止ンダリ明晩小雨ガ降ツタリ止ンダリ明後日小雨ガ降ツタリ止ンダリグツツイタ天気ガツツク東京地方気象特報及暴風警報東京地方全区豪雨ガ降ル尚一昼夜位ハツツク」というものであった。

関東地方、22日夜は大暴風雨となり各地で大雨のため出水して、翌日の新聞記事によれば「関東一帯恐怖の一夜」「東日本の全線途絶」と鉄道各線の不通を報じている。「午後6時半鴨宮、小田原間で鉄塔沈下で運転危険」とか「二ノ宮、国府津間線路浸水・・・」という関連記事が出ている。

全国各地の気象災害や自然災害の史跡や碑文を気象予報士として、防災上しっかり調べ直しておくことも必要であろう。

栃木県気象予報士会設立

渡辺茂男 会員(栃木)

栃木県気象予報士会設立のきっかけは、1999年の暮れ、現在同代表を務める大門禎広さんと私が、お互い呼びかけあい、宇都宮地方気象台課長の平沼洋司会員の賛同を得て、会の発足の運びとなりました。そして、2000年1月28日の顔合せ会をもって、栃木県気象予報士会設立となりました。

第一回例会は、2000年9月3日(日)宇都宮市中央公民館で、近県の気象予報士会会員を含め約20人の参加者を得て開催されました。そこで、会の方針、例会は年2回とすること、などを申し合わせました。続いて、平沼会員による「気象と経済効果について」と宇都宮大学地域共同研究センターの國分里美助教授による「雷の災害とその防止対策」と題した講演が行なわれました。

現在、ほとんどの気象予報士が、資格を本業に生かすきれない状況にあります。また、気象予報技術の日々の進歩に遅れないよう自ら努力していくことは、大変なことと思います。栃木県は今まで、気象災害が少ないとされていた地方でしたが、2年前の台風に伴う余笹川の氾濫で多大な災害が出たことは、記憶に新しいと思います。また、ここ北関東は全国でも雷が多いところとして有名です。

このようなことを考えても、栃木県気象予報士会の設立は、非常に重要と思われる。この会を通して、会員同士の情報交換の場、自己研鑽、地位向上を図りまた、一方では、地域社会、教育の場に協力できればと考えております。

最後に、設立に参加、ご協力いただいた方々に心より御礼申し上げます。

栃木県気象予報士会 連絡先(渡辺茂男)

〒320-0802 栃木県宇都宮市江野町6-13

E-mail: fwga4086@mb.infoweb.ne.jp

Tel 028-638-0345 Fax 028-638-6456

「那智勝浦（和歌山）のレンズ雲」

和田光明 会員(大阪)

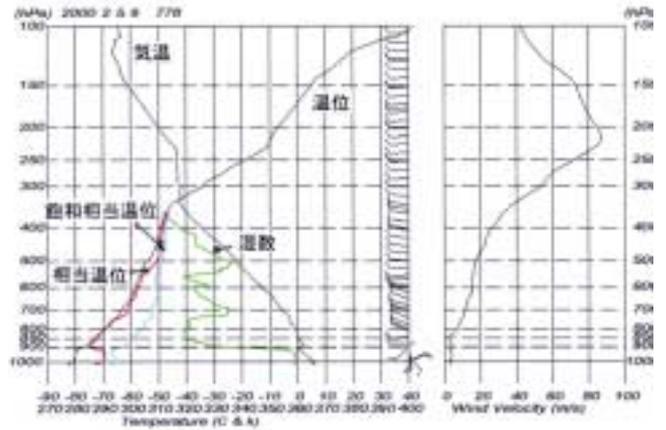
写真のレンズ状雲は、和歌山^{ひがしむろ}県東牟婁郡那智勝浦町の「かつうら御苑」にて2000年2月5日午後3時頃に撮影した。撮影方向は北方向である。レンズ状雲は、山岳により励起された風下波で、ある空気層が凝結高度を超えた部分に発生する。山岳波が発生するには、Scorer (1949) の理論的研究から導かれたスコラーのパラメーター (Sc)

$$Sc = \frac{g}{U^2} \frac{1}{\rho} \frac{\partial \rho}{\partial z} - \frac{1}{U} \frac{\partial^2 U}{\partial z^2}$$

U : 乱れを受けていない大気の水平風速、 ρ : 温位、 g : 重力加速度、 z : 高度と、その解析的研究により Sc の鉛直プロフィールが風下波形成の決定的要素であることが分かっている。Scorer は、風下波が存在するためには、上層の Sc の値が下層の Sc の値よりも必ず小さくなくてはならないと結論している。また大井ら (1974) は上式で第 2 項は shear gradient で Sc の大部分を占めるとしている。この写真の場合、雲が発達していないことから、山岳によって乱された層がきわめて安定であることがわかる。図には 5 日 9 時の潮岬のデータを示した。800hPa ~ 600hPa の間で風速は高度とともに増加している。700hPa 付近では湿度が極大となっており、その上下層は乾燥域となっている。温位、相当温位、飽和相当温位の分布から 700hPa ~ 600hPa の間は安定層といえる。

700hPa ~ 600hPa の層は風向が西寄りであることから、紀伊半島の山岳で発生した山岳波により、700hPa

図 2000年2月5日9時(日本時間)の潮岬の高層データ



~ 600hPa でレンズ状雲が発生したと考えられる。

レンズ状雲は、上空の強風や擾乱の接近を知らせたよりもする。6日は低気圧が紀伊半島を通過し、和歌山県潮岬では日雨量が25mmであり、色川では日雨量が37mmであった。この季節としては強い雨が降った。潮岬の高層データとアメダスデータは、気象庁提供のデータを使用した。

参考文献

大井正一、故曲田光夫、故山本三郎、1974: 富士山の山雲の発生条件(5)、日本気象学会1974年秋季大会予稿集、46 Scorer, R.S., 1949: Theory of wave in the lee of mountain, Quart. J.R.Met. Soc., 75, 41-56



「大空に咲く夕顔（かなとこ雲）」

永井秀行 会員(沖縄)



撮影日時：2000年7月1日(土)19時40分

撮影場所：沖縄県中頭郡読谷村(自宅より)

撮影条件・気象条件：コンパクトカメラにて撮影。沖縄は太平洋高気圧の南西に入り大変蒸し暑い1日となり、あちらこちらで雄大積雲が発達していました。

「Anvil Cloud」

石崎高起 会員(千葉)



撮影日時：2000年9月10日(日)14時43分

撮影場所：千葉県船橋市若松

撮影条件・気象条件：南南西2.3m/s、快晴、最高気温31.2度

「お天気フェア2000 OSAKA」を終えて

井瀧陽平 会員(大阪)

8月10日(木)から12日(土)の毎日朝10時~夜8時まで、大阪・梅田の阪急三番街の地下2階水上ステージ周辺において「お天気フェア2000 OSAKA」(主催:(財)日本気象協会)が開催されました。これは気象業務の理解と気象知識の普及と啓蒙を目的とし、夏休みの子供やファミリー層を中心に楽しく参加・体験できる場を提供するため実施されました。関西気象予報士会としても開催の趣旨に賛同し、「お天気相談コーナー」を受け持ち、また夕方以降は大阪管区気象台の気象観測測器等展示コーナーのお手伝いもさせて頂きました。その他にもいろいろ楽しいコーナーがあり、3日間で1万6千人ほどの参加者がありました。



「お天気相談コーナー」では、パソコン2台(気象協会のMICOSとインターネット接続が可能)の設置および気象予報士関連の本の展示で、天気の違い合わせや気象予報士になるには?といった問いに答える体制

で臨みました。初日はMBSテレビ(TBS系)の夕方のローカルニュースで中継が入り、我々担当の「お天気相談コーナー」も約20秒ほどでしたが紹介されました。その効果もあって初日は今ひとつであった来場者も、2日目以降は目に見えて増えました。

「お天気相談コーナー」を訪ねて下さった方は、大きく3つに分けることができます。まず夏休みの宿題のための子供たち。次に気象予報士の試験を受けようとお考えの方。そして最後に、天気の違い合わせや気象予報についての疑問がある一般の大人の方。特に2日目以降は台風9号関連で、情報を求めに多くの方にお越し頂きました。

関西気象予報士会の活動はこれまで会員内部向けの見学会や勉強会が主で、この「お天気フェア」が一般に向けた初めての行事となりました。気象予報士の知名度向上の一つの機会になり、我々気象予報士会会員にとっても勉強や会員相互の親睦を深める良い機会になったのではないかと思います。

最後になりましたが、このような機会・場所を提供して下さった日本気象協会関西支社、またご尽力を頂いた関西気象予報士会会長はじめ幹事の方々に厚く御礼申し上げます。

はじめての気象予報士体験

久保尊義 会員(奈良)

「お天気フェア2000 OSAKA」のことをMLで知った私は、ふだん気象予報士会会員としてそれほど積極的に参加していないうしろめたさも手伝い、スケジュールの許す範囲内で参加してみようと思いました。

いくつかのブースに区分けされた会場におそろいの黄色のポロシャツを着たスタッフが若干緊張した面持ちで人が集まってくるのを待っているようでした。よくみると、お天気キャスターがラジオ実況のスタンバイをしており、「これは思っていたよりも大きなイベントなんだ、下手なこと言えないぞ、どうしよう」と、逃げだしたい気持ちを抑えつつ関西気象予報士会のブースで会員の方々と合流し、黄色いポロシャツに着替え、ひと通り説明をうけてとりあえずお天気相談コー



ナーのイスに座りました。専用のノート型パソコンが置かれており、お客さんの対応に追われているようでもないのにパソコンをのぞいて見ると、気象情報を簡単につぶさに見ることができて、思わずテンションも高まり、今までの不安をよそにいろんな情報を見ることに熱中してしまいました。

そうこうしているうちに徐々にお客さんも家族連れを中心に増えてきて、お天気相談コーナーにも多くの人たちが訪れるようになり、「あした日本海に行くんだけど、お天気どうかな?」といった相談から「気象衛星ひまわりの大きさは?」といった質問におおわらわらとなったりと、けっこう忙しくなってきました。

振り返ってみると、少なくともイベントの最中、私は気象予報士として充実した楽しい時間でした。その一方で、私たちの一言がいかに責任重大であるかを改めて知ることができ、また同時に、気象予報士として勉強不足にならないよう、その努力の必要性を痛感しました。

地 方 活 動 の ご 案 内

【青森県】

去る9月17日、初の行事として自衛隊三沢気象隊の施設見学を行いました。当日は管制塔前に12名が集まり、10時30分から見学開始となりました。

始めに気象隊事務室で、航空気象隊三沢気象隊の渡邊勝志隊長より自衛隊における気象隊の役割、気象支援のシステム、気象観測方法等について説明していただきました。続いて予報現業作業室へ入れてもらい、レーダー機能やコンピューターシステムなどについて説明していただきました。最後に屋外で、ゾンデ施設などを説明していただき、約1時間に及ぶ見学会を終りました。

実際に基地の中に入って、普段では見たり聞いたりできない体験ができたのは、非常に有意義だったと思います。

【東京支部】

東京支部は、会員のみなさんからの話題提供を柱とする「会合」、実戦的な天気図解析に取り組む「天気図検討会」、そして気象関連施設を巡る「見学会」の3本柱で活動しています。今回の活動は、会合が12月初旬、天気図検討会が11月25日(土)午後の予定です。

これらの活動には、気象予報士会会員であれば、どなたでも参加できます(これまで、関東各県在住の方の他、新潟、長野、静岡そして四国の方も参加されました)。

詳しいことは、メール会員の方は気象予報士会MLを通じて、また郵送会員の方には、あらかじめお申し出頂くことで、行事開催前にハガキでご連絡を差し上げております。

郵送連絡のご希望は、

〒181-0012 三鷹市上連雀6-6-9-341 渡辺保之までお知らせ下さい。特に、今年8月の試験で新たに合格された方、これまで参加されたことのない方、参加をお待ちしております。

【千葉県気象予報士会】

当会は昨年9月に発足した関東地方では後発組の地方組織です。基本的には3ヶ月に一度、船橋市にて例会を行っております。今年1月、4月、10月に開催しました。例会では外部から講師を招聘しての招待講演をメインに据えております。そのほか会員からの話題提供もいただいております。

施設見学会として、本年3月に千葉市幕張のウェザーニューズ社見学会、7月には成田の新東京航空地方気象台の見学会を催しました。

なお、千葉県気象予報士会では特に例会等の活動への参加資格は設定しておりません。基本的にはどなたでも参加いただけるというスタンスです。千葉県気象予報士会に登録をご希望の方はメール、FAX、または郵送にて遊佐昌樹宛お知らせ下さい。

E-mail: BVE255@my.email.ne.jp

〒294-0036 千葉県館山市館山1206-3

FAX: 0470-20-1316

千葉県気象予報士会世話人 遊佐昌樹

【神奈川気象予報士会】

次回開催案内

開催日時: 1月13日(土) 13時45分

開催場所: 慶應義塾高等学校地学教室

集合場所: 東横線日吉駅改札を出たところ、通称「ひよたま」前。

* 13時30分に慶応高校の校舎へ向かいます。

* この時間に遅れた方は、直接、慶応高校へ。

解散: 17時30分頃。この後、懇親会に向かいます。

連絡先: 地方ML窓口 小川栄造

eizobach@ta2.so-net.ne.jp

連絡方法: 参加するのに、事前のメールは不要です。

最近のトピックス

今回は恒例の「写真コンテスト」がメインになります。

地方活動の宣伝、広報等

神奈川の場合は、支部は特に設けていません。2~3ヶ月に1回の気象予報士会の会合で、各自のテーマを発表します。その他、工場見学等があります。

【東海支部】

気象予報士会東海支部は97年8月の設立総会以来、今年8月まで毎月例会を開催してきました。東海支部は気象予報士と、会員の紹介があればどなたでも参加自由です。内容は気象関係の講演会・勉強会、気象施設の見学会、天気図検討会が中心です。特に、98年2月には航空自衛隊小牧気象隊見学、98年9月には移動幹事会、99年8月には国土庁主催の防災フェアへの参加、00年2月は牧ノ原レーダー観測所の見学、そして00年7月は岐阜地方気象台を見学しました。

東海支部に参加ご希望の方は、下記世話人へE-mailまたは電話でご連絡下さい。これまでの活動の詳細は、下記ホームページ気象予報士会東海支部をご覧ください。

例会開催日: 毎月第4土曜日(会場の都合で変更あり)

開催場所: 名古屋市内会場

例会時間: 13:00 ~ 17:00

連絡先: 中原定雄 E-mail nakahara@okbnet.ne.jp

TEL 0584-81-1467

連絡方法: 上記世話人までE-mailまたはTEL

(ただしTELは19:00以降)

ホームページ: <http://member.nifty.ne.jp/snakahara/>

【関西気象予報士会】

- ・ 8月4日 第3回見学会「大阪管区気象台見学と講話」
- ・ 8月10~12日「お天気フェア OSAKA2000」に参加
- ・ 8月 NTTdocomoの小冊子 台風に関する原稿の監修

- ・ 9月18日～10月13日「楽しいお天気講座」に協力
- ・ 10月14日 第4回移動幹事会への協力
- ・ 今後の予定「関西気象予報士会 第2回総会」

日時：11月18日(土) 14:00～17:00

場所：大阪科学技術センター405号 会議室

予定：14:00～15:15 定期総会

15:30～16:45 特別講演

講師 大阪府立大学名誉教授 小元敬男氏

17:00～懇親会

関西気象予報士会会員には詳細をメールや葉書でお知らせします。また入会希望の方は下記までお問い合わせ下さい(メール登録は無料)。

(財)日本気象協会関西支社気象情報部 平松信昭

TEL:06-6266-7606 FAX:06-6266-6000

E-mail:hiramatu@jwa.or.jp

【四国支部】

次回開催案内

第7回例会(徳島県)を来年1月14日(日)に予定しています。

場所：徳島県池田町。詳細につきましては、決定次第ML等でお知らせいたします。

連絡先・連絡方法：濱田(RXR13772@nifty.ne.jp)までメールを下さい。

最近のトピックス

9月10日(日)第6回例会(高松：讃岐会館)が、岡山県からも参加者2名を迎え、“5県”総勢11名で行われました。

1. 四国地方の降水分布の地形的特性(続報)
2. 四国の瀬戸内側平野部の渇水について
3. 今後の四国支部の運営について勉強会、議論が行われました。

その他天気図検討会(東京)について、概要報告が話題となりました。夜は懇親会で盛り上がりました。

地方活動の宣伝、広報等

岡山県、四国のみならず、気象予報士会会員なら誰でも参加できます。

【西部支部】

西部支部は今年の7月で、3年目の活動に入りました。参加者も少しずつ増えてきて、10人を超えるようになりました。最近では福岡市の参加者が増えてきたので、11月例会は初めて福岡市で開くことになりました。

例会内容は3部構成です。第一部は会員がもちまわりで例会の日の気象分析をします。2回続けてチャレンジすることが原則。第二部は会員の専門の分野、気象に関して興味や関心をもって調べたことをミニ講演の形で行います。第三部は気象作業実習の形で天気図の学習。これがとても楽しみです。懇親会は必ず行います。

11月例会：11月25日(土)14:00～

会場：福岡市で行います。

場所は決まり次第フォーラムに報告します。MLに入っていない会員の方は、

永田修二：TEL:093-592-3754 までご連絡下さい。

✧成田空港気象施設見学記

眞崎良光 会員(千葉)

千葉県気象予報士会では7月28日、成田空港域内にある新東京航空地方気象台を見学した。午後2時、空港第2ビル駅に集合した時点から至るところで警備体制が敷かれており、空港域内であることを強く感じさせられた。改札を抜けてから、果たして何人のガードマンに出会ったことだろう。

まずはドップラーレーダー局舎を見学。気象台からは徒歩で10分ほど離れており、普段は遠隔監視制御されているそうである。今回は2階の送受信システムの機器を中心に見学した。レーダーの観測領域は半径およそ100km。ドップラー効果によるビーム方向の雨滴移動速度が観測されている。(余談・当日は曇天がちなが強いエコーは見られず、もう少し悪天候ならば、との声も参加者からあったような……。)室内は広々とした感じだった。

次に気象台へ移動し、予報現業室と気象観測室にお邪魔した。そこは航空気象台、空域予報や飛行場予報に関する予報官の方々の話は印象深かった。この気象台で担当する空域予報は、日本列島のはるか南東洋上の空域までカバーしており、その広さに改めて驚かされた。

一方の観測室はビルより上に突き出し、ほぼ南北に走る滑走路を一望できる。この日は見えなかったが、茨城・鹿島の工業地帯も確認できるとの話である。30分毎に記録される定時観測をはじめ、目視観測の要領などを伺った。滑走路視程や雲底高度測定など、滑走路わきの機器による観測データも送られてきている。そうこう説明を聞いている間にも、ターミナルへと移動する航空機が窓のすぐ外に見られる、そんな仕事場であった。

両室を見学後、忙しい中、予報官の方々から研究報告や予報手順などの説明を聞くことができた。飛行場予報の実際の業務内容、予報官ですら苦慮する空港の濃霧予報など、実際の業務の難しさを垣間見る一面もあった。海に囲まれた千葉県でも内陸に位置する成田ゆえの難しさが伝わってきた。記憶に新しい、今春の千葉県北西部を襲った降雹についても、ドップラーレーダー解析を交えて紹介いただいた。シアーもはっきり解析されており、ドップラーレーダーの本領を見せつけられた。

お邪魔したにもかかわらず、気象台の方々は資料や発表を周到に準備くださっており、心より感謝と御礼を申し上げたい。千葉県予報士会世話人の方々のセッティングもあり、充実した時間を過ごした夏の午後だった。

【事務処理窓口の変更】

前田陽男 幹事

事務処理等の外注化に伴う、事務処理窓口の変更の件

本年春より検討を重ねてまいりました、「事務処理等の外注化」につき、下記の通り株式会社第一プランニングセンターに外注することとなりました。

今後は同社が、当会の「事務センター」として機能することになりますので、よろしくお願い致します。

これに伴い、会員の皆様との窓口を下記の通り一部変更致しましたので、御連絡申し上げます。

外注業務とその内容

業 務	内 容
(1)窓口業務	・会員からの会費納入に関する問い合わせ対応
(2)入・退会処理	・気象予報士会、入会、退会の関する名簿登録作業（含む、M L 関連処理）
(3)変更届処理	・会員からの名簿記載事項等の変更依頼に関する登録作業（含む、M L 関連処理）
(4)年会費処理	・会費入金実績の登録
(5)会報編集業務等	・会報の編集業務の一部（版下割付等）、書類発送業務

会員窓口の変更

(変更前)

業 務	窓 口
(1)会費納入に関する問い合わせ	・会計担当幹事 ・事務局(気象業務支援センター)
(2)入・退会処理届	・事務局(気象業務支援センター)
(3)各種変更届け(名簿、M L 等)	・事務局(気象業務支援センター)
(4)てんきすと投稿原稿	・会報担当幹事



(変更後)

上記(1)~(4)の窓口業務取扱い	・事務センター (第一プランニングセンター)
-------------------	---------------------------

なお、気象予報士会事務センターの連絡先は、下記の通りです。

〒107-0052 東京都港区赤坂7-6-52 ハイツ赤坂103
株式会社 第一プランニングセンター内
気象予報士会事務センター
TEL 03-3588-1887
(気象予報士会事務センター専用)
FAX 03-3588-0973
E-mail:yohohead@mb.infoweb.ne.jp
(窓口業務時間：10:00～17:00)

■地方活動メーリングリスト開設にあたって■

上妻美砂恵 会員(静岡)

メール会員の方には、M Lに募集案内がありました『地方支部活動メーリングリスト(略称：地方M L)』が、10月1日に運用開始となりました。現在、11地方支部から28名が参加しております。

地方M Lでは、地方活動の世話人および気象予報士会地方担当幹事が参加し、地方活動同士のネットワーク強化を目指しています。現在、地方活動の日程が過密化し、決定前の不確定要素を含んだ日程情報を元に、各地方の世話人同士が連絡調整しないと、活動日が重複してしまう事態も起こりかねなくなっています。

今までも参加交流可能な地域の世話人の間では、ダイレクトメール等で日程調整していましたが、地方M Lとして気象予報士会からの支援を受けました。日程調整だけでなく、地方・支部活動運営についての悩み相談も、話し合われています。

地方での活動が孤立無援ではなく、地方の独自性をますます生かし、気象予報士会が活発になることを願っています。

届出フォーム使用の徹底のお願い

- ・事務処理を正確かつスムーズに行うため、各種変更届けにつきましては、必ず、本年5月の「総会議案書」に掲載されているフォームを使用し行っていただきたく、お願い申し上げます。異なったフォームや、自由書式による申請、会費振込票に記載、などの方法による申請は堅くお断り致します。(紛失された方は、事務センターまでご連絡下さい。FAXまたは郵送にて届出用紙を送付致します。)
- ・なお、Eメールにて申請する場合の「フォーム」については、事務センターにメールにて連絡いただければ、折り返し、添付ファイル(テキスト形式、WORD形式(Ver.6.0以上)、一太郎形式(Ver.6.0以上)セット：約60kB)でお送り致します。

会費納入に関するお願い

- ・気象新聞購読費の振り込みを、気象予報士会会費の振り込みと勘違いされて、『既に会費を振り込んだはずだが会費納入の督促状が届いた』との問い合わせをされる方が数多く見受けられます。忘れずにお振り込みいただくようよろしくお願い申し上げます。
- ・会費の納入期限は、毎年春の「総会」までとなっております。気象予報士会の活動は、皆様方からいただく会費により運営されておりますので、早期の納入をよろしくお願い申し上げます。

編集後記

業務外部委託スタート、ホームページリニューアル、移動幹事会と、発展期を迎えた当会としては順調な滑り出しだと思います。これもひとえに会員の皆様のご協力の賜物であり、この場を借りて幹事一同感謝いたします。

会報「てんきすと」では、引き続き会員の皆様からのご投稿、ご意見をお待ちしております。(編集子)

気象予報士会 E-mail yohohead@mb.infoweb.ne.jp

ホームページ <http://village.infoweb.ne.jp/yoho/>

気象予報士会メーリングリスト加入に関するお問い合わせは上記E-mailアドレスまでお願いします。

発行日 2000年11月8日 発行人 木村龍治 発行所 気象予報士会◎ 編集協力 (株)第一プランニングセンター